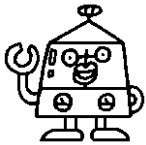


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

か メダカの飼いを教えて



じゃりをしいた水そうに、水草を植えこみ、水道水をそのまま使わないようにさえすれば、飼えるよ。

^{さっきん}殺菌用の^{えんそ}塩素がとけた水道水は、水そうには使えない

水道水は、殺菌のため塩素ガスがふきこまれているので、魚には害になります。

1～2日くみ置きして、塩素が空気中に出ていった水道水か、ペットショップなどで中和剤（ハイポ）^{ちゅうわざい}を買ってきてとかした水道水を、水そうに使います。

水さえ気をつければ、メダカはじょうぶなので、底にじゃりをしき、水草を植えこんだ水そうで飼うことができます。えさは、売っているキンギョや熱帯魚のえさを、1日に2回くらいあたえます。食べ残しは、すぐ、スポイトなどですい出し、食べ残しが出ないように、えさの量をかげんします。水は、よごれてなければ、じょう発してへった分だけ、くみ置き水などをたしてやります。

たまごを産ませたいなら、温度計やエアープンプもあったほうがいい

メダカは、水温が18以上になる春から夏まで、たまごを産みます。たまごは、水草などにくっつき、10～20日くらい（水温によってちがう）でふ化し、子魚が出てきます。たまごや子魚は、えさとまちがえられて食われることが多いので、水草ごと別な水そうに移して、親の体の3分の2くらいの大きさに成長するまで育ててから、親と同じ水そうにもどしましょう。

赤ちゃんメダカには、ゆでたまごの黄身や、キンギョ用のえさをすりつぶしたものを水でといて、1日に3～4回、あたえます。

